

百体百様

狛

犬は地域によって進化が異なり

それぞれの地域文化と結びつきながら

連綿と現在に生き続けています。

それぞれの歴史に思いを馳せながら

厳しさやかわいい表情をみせてくれる

「白河狛犬めぐり」はいかがですか。

白河

狛

犬

めぐ

り

り

白河狛犬ガイド



特集

現代アーティスト
小松美羽さんと巡る
白河の狛犬文化



「静かにたたずむ狛犬さん、ちょっとヤンチャ系の狛犬さん、狛犬さんにもいろんな性格がありますが、白河の狛犬さんは、『どうだ!』とばかりに自分の強さを誇示する迫力のある芸術作品がたくさんあります。狛犬さんを全霊込めて彫った作家の魂と周囲の神聖なスピリットといったエネルギーが渦巻いているのを感じます」

神獣をモチーフとする現代アーティストの小松美羽さんは、日本だけでなく世界中で活躍。そして、今回、白河の地を訪れ、狛犬を巡る旅にでました。

旅のきっかけは、2020年秋に行われた『福島ビエンナーレ2020「風月の芸術祭 in 白河」～祈～』という現代アートの芸術祭でした。「祈」をキーワードに、白河の歴史、文化に根づいてきた「狛犬・神獣」や「白河たるま」、神社仏閣や教会などの歴史的なものを重ねて展開する企画に、小松さんも作家の一人として出展。芸術監督を務めた渡邊晃一さんから白河の狛犬の歴史と作品の話聞き、大きな縁を感じたといいます。

小松さんは、狛犬を「狛犬さん」と呼びます。それは、子どものころからの実体験に関係していました。長野県の千曲川にほど近い自然豊かな場所で育った小松さんは、よく近所の山で遊んでいたそうです。「気がつくとも茶色の毛をした犬がそばにいました。『山犬さま』と呼んだりして。夢中で遊んで道に迷ってしまっても、山犬さまが導いてくれました。親に話しても、そんなものはないと言われてしまう。でも、わたしのそばには確実にいました」

小松さんは、子どものころからずっと山犬さまに導かれてきたような感覚があると言います。作品の象徴として、狛犬をはじめとする神獣をモチーフに描きます。

「わたしの場合は、山犬さまという日本狼系から入って、猫科の獅子・狛犬につながっていくのですが、信仰や宗教に触れると、神様につかえる神獣がでてきます。悪いものを追い払って神聖なところへ導いてくれる、ものごとの本質的な豊かさや調和へ導く役割を担っているのかもしれない」

現代アーティスト

小松美羽 × 白河狛犬

プロフィール

1984年、長野県坂城町生まれ。現代アーティスト。2015年、有田焼の狛犬作品『天地の守護獣』が大英博物館へ永久展示。2017・2018年、台湾、香港、日本での個展は、観客動員数とセールス双方で新記録を樹立。2020年、日本の魅力を再発見して世界へ発信する雑誌『ディスカバージャパン』で特集が組まれた。趣味が狛犬研究というほど造詣が深く、狛犬をモチーフとした作品も多い。



石という自然の産物に、天才的な石工の技が調和 白河の狛犬美術は、生まれるべくして生まれた

福島県県南地方には、300対近い狛犬があります。狛犬以外にも地藏や石馬像、灯籠なども多く、石造り文化が広く根付いています。

その理由の一つとしてあげられるのが、良質な石材の存在です。栃木県北端部から福島県南部には、羽鳥湖周辺から噴出した火砕流が堆積してできたとされる岩石の層があります。この石(デイサイト質凝灰岩)は、比較的やわらかく容易に加工できるため、幅広く利用されてきました。その呼称は地域によって異なり、白河市では「白河石」、那須町では「芦野石」、浅川町では「富貴作石」と呼ばれています。

そしてこの石に魅せられたとみられるのが、旅石工として現在の東白川郡周辺を訪れ浅川町に定住した小松利平です。利平の故郷である信州高遠(現在の長野県)では、藩が収入を増やすため長子以外の男子に石切りの技術を習得させ旅稼ぎさせることを推奨していました。利平が定住した理由は定かではなく名を刻んだ作品も見つ

かっていませんが、故郷の高遠藩を離れ移住したため連れ戻されないよう名を伏せたのではと推測されています。

優れた石工であった利平の技は、弟子であり小松家の養子とした寅吉へ、そして寅吉の一番弟子である小林和平へと受け継がれました。特に寅吉の卓越した技術は他の石工へも影響を与え、地域全体に芸術性の高い作品が残ることとなります。

狛犬は高貴なものを守るための神獣として、神社や仏閣の前に置かれます。前足を伸ばして腰を下ろした蹲踞(そんきょ)型が基本ですが、福島県県南地方では、獅子山型・飛翔獅子型などと通称される創意工夫されたものが数多くみられます。

特徴ある福島県県南地方の狛犬や神獣は、全国的にも徐々に注目度があがっており、見に来る人も増えています。狛犬の芸術性から発する神聖なパワーが人々の心を惹きつけているに違いありません。

福島ビエンナーレ 2020
「風月の芸術祭 in 白河」 出展作品



「山犬様
守護」



「山犬様
振り返り」



「山犬様
相思相愛」



狛犬はもはや芸術

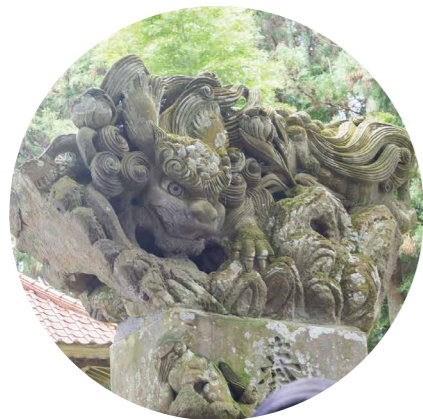
「隆起した筋肉、たてがみの流れ、躍動感、こんな迫力の狛犬は初めてです」小松美羽さんは、鹿島神社(白河市東下野出島)の飛翔獅子を見て声をあげました。のみ一本で彫ったとは思えないほど複雑な曲線を描き、小松寅吉最高傑作との呼び声が高い狛犬です。(写真左)

同じ白河市の新地山羽黒神社には寅吉作(※銘はありませんが寅吉作とみて間違いない)、松平定信の歌碑を囲う石柵があります。龍、虎、竹、松、兎、鶏など、中の歌碑が目立たないほど豪華な透かし彫りが施されており、柵の中には逆立ちをした狛犬が柱を押さえています。(写真1~3)

寅吉の師匠である小松利平。棚倉町の八槻都々古別神社には、利平の制作と推定される狛犬がいます。「阿吽でずいぶん顔が違う。阿は南国、吽は日本つばい。国際結婚かもしれない」と小松さんは、想像をかき立てます。(写真4~6)

最後は白河市に戻り、南湖神社。画家を志すも許されず家業を継いで石工となった野田平業作。「爪と牙が特徴的です。透かしの手鞠はよほどの技術がないとできないでしょう」(写真7~9)

一つ一つをじっくり観察し、醸し出されるパワーにも関心を寄せる小松美羽さん。見る人の視点でさまざまなものが見えてくる狛犬の情景を巡りました。



彫りの流れがすばらしい飛翔獅子には、様々な装飾が施されています。牡丹のしずくは、獅子の腹に入った虫を下すといわれ、中国の獅子にもよく描かれます。子犬も3匹、足下にまわりついています。

小松美羽 対談 福島県南地方 狛犬ネットワーク

狛犬パラダイスでの個性とパワー

相田道代(以下、相田)：福島県南地方には、狛犬がたくさんいます。信州、今の長野県からきた小松利平さんが技術を持ち込んだのが始まりと言われていますが、美羽さんも長野出身ですね。

小松美羽(以下、小松)：そうです。小松利平さんとのつながりははっきりしませんが、白河へ来るようになって、なにか不思議なご

縁を感じました。狛犬も300対もあると聞いてかなり驚きました。

相田：狛犬パラダイスと言われています。狛犬は人によって、見えるもの、感じるものが違います。いっしょに狛犬めぐりをして、細かいところに目がいき、想像を豊かにする様子は、さすが芸術家だと感じました。

小松：ここの狛犬は作家の顔が見えます。

誰かの真似ではなく、それを超えようとするオリジナル性を感じます。技術を競っていてすばらしいです。

相田：一つの大きな石から切り出して、立体に彫るとするのはすごい技術です。一瞬た



りとも気が抜けないでしょうね。
小松：「おれが強いんだ」というのがみながっています。その作家の魂、入魂した芸術品に、まわりの神聖なスピリットが呼応して、切磋琢磨しているように感じます。

相田：狛犬の爪や牙のするどさは、美羽さんの作品「四十九日」に似ていますね。

小松：悪いものを払って神聖なところへ向かうために、そういったところを大切にしています。私ももっと爪を描かなければならぬと思いました。こうした匠の芸術をもっと学校で美術を学ぶ学生さんにも見てもらいたいです。ネットでもいろんなものを見ること

はできますが、実物で見ると周辺の音や気温、空気感によって感じ方が違う。切磋琢磨しているのを肌で感じます。そういったことから感性が磨かれていくのだと思います。

相田：美羽さんの描く神獣は、最初怖さもありますが、よく見ると可愛さがでてくるんです。優しさの中にも力強さがある。

小松：石工さんも激動の時代の中で、技術を磨き、思いを込めていたのでしょうか。今は別の意味でまたいい時代だと思えます。狛犬がしっかり悪から守ろうとする姿を目にするたび、じぶんもしっかりせねばと思います。またこれも導きの力なのでしょうね。



福島県南地方狛犬ネットワーク会長 相田道代
福島県南地方狛犬ネットワークは福島県の南地方に多数存在している狛犬の保存やPR活動等を目的に組織された団体です。福島県南地方の狛犬の素晴らしさを全国に発信し、保存と整備に努めています。

白河市の 狛犬たち

狛犬を巡ると様々な心情風景に出会えます。怒り、畏れ、哀れみ、癒し、慈しみに。石に刻まれた表情の意味が、見る人の心のままに解釈ができるところがおもしろいところです。

狛犬パラダイスと呼ばれる福島県南地方のうち、白河市の狛犬を掲載しました。主に建立年、制作者、建立理由等がわかるものを写真付きでご紹介しています。これでもまだ一部です。狛犬を巡る旅はまだ途中です。ぜひ、いっしょに開拓していきましょう。



01 鹿島神社

- 所 東下野出島坂口303
- 年 明治36年（1903年）
- 匠 福貴作 石工 小松布孝（寅吉）
- 銘 不明



02 羽黒神社

- 所 借宿親地1
- 年 明治26年（1893年）
- 匠 福貴作 石工 小松寅吉
- 銘 不明



03 南湖神社

- 所 菅生館2
- 年 大正11年（1922年）
- 匠 石材彫刻師 野田平業謹刻
- 銘 不明



04 金刀比羅神社

- 所 七番町46（駐車スペースなし）
- 年 明治32年（1899年）
- 匠 石工 小松寅吉 福貴作
- 銘 不明



06 虚空蔵堂

- 所 金屋町55-5
- 年 昭和11年（1936年）
- 匠 石匠 三國次郎
- 銘 不明



05 矢場八幡神社

- 所 北登り町31（駐車スペースなし）
- 年 昭和15年（1940年）
- 匠 不明
- 銘 紀元二千六百年記念



07 諏訪神社

- 所 飯沢268
- 年 昭和15年（1940年）
- 匠 石彫 横町 野田平業作
- 銘 紀元二千六百年記念



08 天神神社

- 所 天神町3
- 年 明治37年（1904年）
- 匠 石工 三國惣助
- 銘 日露戦争武運長久祈願



09 常宣寺

- 所 向新蔵136
- 年 昭和15年（1940年）
- 匠 石匠 三國次郎
- 銘 皇紀二千六百年記念



10 成田山圓養寺

- 所 天神町43
- 年 不明
- 匠 不明
- 銘 不明

49 八雲神社

- 所 九番町米山越154
- 年 昭和10年（1935年）
- 匠 彫刻 大山英太郎
- 銘 不明

50 愛宕神社

- 所 白井掛下27
- 年 昭和7年（1932年）
- 匠 不明
- 銘 不明

51 妙閑寺

- 所 金屋町116
- 年 不明
- 匠 不明
- 銘 不明

52 八竜神社

- 所 八竜神（駐車スペースなし）
- 年 昭和3年（1928年）
- 匠 不明
- 銘 御大典記念





11 白河神社

所 旗宿関ノ森120
年 昭和6年（1931年）
匠 不明
銘 寄附者 カラメ 関根喜四郎



13 熊野神社

所 関辺吉ヶ沢115
年 昭和3年（1928年）
匠 カラメ 石工 沼石作
銘 市渡辺弥蔵氏が地主、氏神祀る



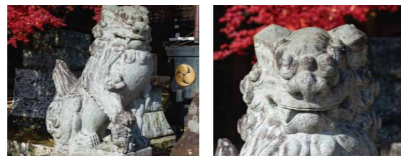
14 鹿嶋神社

所 大鹿島34
年 慶応2年（1866年）
匠 石工 双石村 伊右衛門
銘 不明



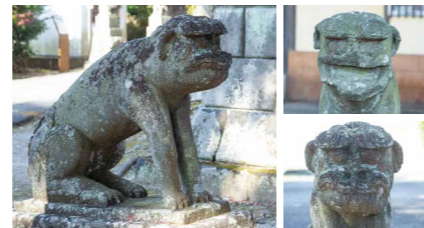
16 鹿嶋神社

所 大鹿島34
年 平成8年（1996年）
匠 尙石の道 鹿島石材 五十嵐祐一郎
銘 不明



12 稻荷神社

所 関辺吉ヶ沢115
年 昭和14年（1939年）
匠 石工 三國次郎
銘 初老記念



15 鹿嶋神社

所 大鹿島34
年 文政11年（1828年）
匠 長坂村石工 大高長八 同捨蔵
銘 不明



17 鹿嶋神社

所 大鹿島34
年 昭和14年（1939年）
匠 石工 大高三二
銘 日支事変従軍記念



18 鹿嶋神社

所 大鹿島34
年 昭和8年（1933年）
匠 政一 彫
銘 不明



20 根渡神社

所 泉田池ノ上100
年 昭和13年（1938年）
匠 カラメ 石工 関根沼石作 甘一 号
銘 不明



21 日枝神社

所 本沼天王山1
年 大正5年（1916年）
匠 久田野 石工 大高三二
銘 巖島神社・伊勢神宮参拝記念



19 庭渡神社

所 久田野宮前89
年 大正10年（1921年）
匠 當村 石工 大高三二
銘 駅員殉職記念



22 八雲神社

所 大和田池ノ入38
年 昭和24年（1949年）
匠 石工 大高三二
銘 初老記念



23 八雲神社

所 大岩倉44
年 明治28年（1895年）
匠 不明
銘 不明



24 角折神社

所 舟田町後29
年 明治31年（1898年）
匠 石川郡字福貴作 石工 小松寅吉
銘 不明

53

白河神社

所 旗宿関ノ森120
年 不明
匠 不明
銘 不明

55

白山姫神社

所 旭町1丁目210-4
年 大正8年（1919年）
匠 石工 麻之助
銘 不明

54

えな姫神社

所 向寺65-口
年 昭和7年（1932年）
匠 不明
銘 不明

56

大山祇神社

所 新白河4丁目6
年 平成9年（1997年）
匠 (有)大高石材 大高次郎
銘 不明

大鹿島大好き



所 住所 年 建立年 匠 石工 銘 建立理由等

57

三柱神社

所 向寺101
年 大正（1912～26年）
匠 石工 三國岩次郎
銘 不明

59

鹿嶋神社

所 大鹿島34
年 昭和4年（1929年）
匠 彫刻師 野田平業 謹刻
銘 不明

58

鹿嶋神社

所 大鹿島34
年 昭和4年（1929年）
匠 不明
銘 亡父追善

60

金比羅神社

所 大鹿島34(鹿島神社参道左)
年 不明
匠 不明
銘 不明



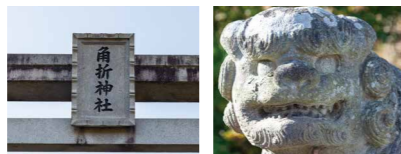
凛々しいわ

所 住所 年 建立年 匠 石工 銘 建立理由等



25 角折神社

所 田島結城館82-1
年 昭和3年（1928年）
匠 白河町 邊見嘉助刻
銘 御大典記念



26 角折神社

所 田島結城館82-1
年 明治38年（1905年）
匠 不明
銘 征露記念



27 天満宮

所 田島野天神前70-2
年 昭和8年（1933年）
匠 信夫村増見石工真船卯右工門
銘 卒業記念



28 温泉八幡神社

所 板橋屋敷5
年 昭和9年（1934年）
匠 石工 三國岩次郎
銘 伊勢神宮記念



29 熊野神社

所 双石坊ノ入117
年 明治29年（1896年）
匠 大字双石 石工 深谷儀
銘 御大典記念



30 熊野神社

所 双石坊ノ入117
年 昭和3年（1928年）
匠 不明
銘 熊野参宮記念



31 八幡神社

所 小田川愛宕下1
年 大正6年（1917年）
匠 石工 室根双助
銘 里ノ根八幡神社境外撰社



32 八幡神社

所 小田川岩久保19
年 明治36年（1903年）
匠 不明
銘 不明



33 羽黒神社

所 表郷番沢御殿ヶ入41
年 大正13年（1924年）
匠 常磐白河之住 彫刻師 野田平業謹刻
銘 不明



34 天神神社

所 表郷金山天神山1
年 大正5年（1916年）
匠 不明
銘 立太子記念



35 近津神社

所 表郷金山犬神86
年 昭和4年（1929年）
匠 不明
銘 清水寺脇



36 都々古和氣神社

所 表郷梁森石崎142
年 昭和9年（1934年）
匠 白河町彫刻師 野田平業作
銘 参宮記念



37 社八幡神社

所 表郷八幡社山1
年 明治28年（1895年）
匠 白河市登町石工齊藤忠吉
銘 不明



38 都々古和氣神社

所 表郷三森都々古山1
年 昭和3年（1928年）
匠 彫刻師 白河之住 野田平業作
銘 御大典記念

61 境神社 (境の明神)

所 白坂明神80
年 不明
匠 不明
銘 不明

62 八幡神社

所 関辺大久保1
年 大正5年（1916年）
匠 彫刻師白河横町 野田豊吉
銘 不明

63 角折神社

所 舟田町後29
年 大正10年（1921年）
匠 大沼村カラメ石工関根國三
銘 不明

64 八幡神社

所 小田川岩久保19
年 大正8年（1919年）
匠 不明
銘 不明



所 住所 年 建立年 匠 石工 銘 建立理由等

65 庭渡神社

所 久田野宮前89
年 平成24年（2012年）
匠 大高石材店
銘 長寿祝・古希祝

66 庭渡神社

所 萱根鎮守前12
年 昭和5年（1930年）
匠 カラメ 石工 十一
銘 不明

67 五龍地神社

所 表郷中野中才ノ内2
年 昭和8年（1933年）
匠 カラメ石工関根沼石作（十七）
銘 不明

68 天神神社

所 表郷金山天神山1
年 平成17年（2005年）
匠 角田石材店 角田勝
銘 古稀記念



所 住所 年 建立年 匠 石工 銘 建立理由等



39 角折神社

- 所 東形見久保4
- 年 慶応3年（1867年）
- 匠 双石 石工 伊右工門 金
- 銘 不明



40 国津神社

- 所 東深仁井田陣ヶ平74
- 年 昭和25年（1950年）
- 匠 浅川町福貴作 石工 梅澤敬明 梅澤智明
- 銘 参拝記念



41 角折神社

- 所 東栃本下本郷103
- 年 昭和15年（1940年）
- 匠 小林和平
- 銘 還暦祝記念・従軍記念



42 熊野大権現

- 所 大信隈戸滑里川80
- 年 大正10年（1921年）
- 匠 石工 信夫村 増見 真船卯右工門
- 銘 不明



43 赤仁田神社

- 所 大信隈戸赤仁田
- 年 不明
- 匠 不明
- 銘 62歳・60歳記念



44 近津神社

- 所 東上野出島坂上7-1
- 年 昭和12年（1937年）
- 匠 元沢井 石工 小林和平
- 銘 不明



45 八幡神社

- 所 大信増見八幡山160
- 年 昭和4年（1929年）
- 匠 真船卯右工門
- 銘 不明

69 都々古山神社

- 所 表郷高木向山56
- 年 昭和18年（1943年）
- 匠 不明
- 銘 不明

70 巖島・八幡神社

- 所 表郷堀ノ内十二段129
- 年 大正8年（1919年）
- 匠 石工 和知繁雄
- 銘 不明

71 熊野神社

- 所 表郷深渡戸森前88
- 年 昭和8年（1933年）
- 匠 石川郡浅川村石工 鈴木富五郎
- 銘 不明

72 日吉神社

- 所 東蕪内南屋敷77
- 年 昭和7年（1932年）
- 匠 カラメ 沼石作
- 銘 不明

所 住所 年 建立年 匠 石工 銘 建立理由等



46 鳥住神社

- 所 大信上新城原畑85
- 年 大正8年（1919年）
- 匠 石工 本村増見 真船卯右工門
- 銘 不明



47 春日神社

- 所 大信隈戸日渡10
- 年 大正14年（1925年）
- 匠 石工 真船卯右工門
- 銘 不明



48 熊野神社

- 所 大信下小屋宮沢98
- 年 安永4年（1775年）
- 匠 不明
- 銘 不明



狛犬めぐりの心得

狛犬見学は参拝のマナーを守りましょう

- 鳥居で一礼
- 手水舎で清める
- 参拝
- 狛犬見学や御朱印をいただく

ごんにはー
こまじめてすー

狛犬一同をお行儀よく
お待ちしております



73 矢越神社

- 所 東金子矢越山4-37
- 年 大正11年（1922年）
- 匠 石工 棟梁安瀬収蔵 彫刻大高三二
- 銘 不明

74 日吉神社

- 所 大信下新城金子山5
- 年 大正8年（1919年）
- 匠 石工 本村増見 真船卯右工門
- 銘 不明

75 庭渡神社

- 所 大信増見蟹沢1
- 年 昭和2年（1927年）
- 匠 不明
- 銘 不明

76 鹿島神社

- 所 大信中新城内屋敷1
- 年 大正9年（1920年）
- 匠 石工 増見 真船卯右工門
- 銘 不明

所 住所 年 建立年 匠 石工 銘 建立理由等

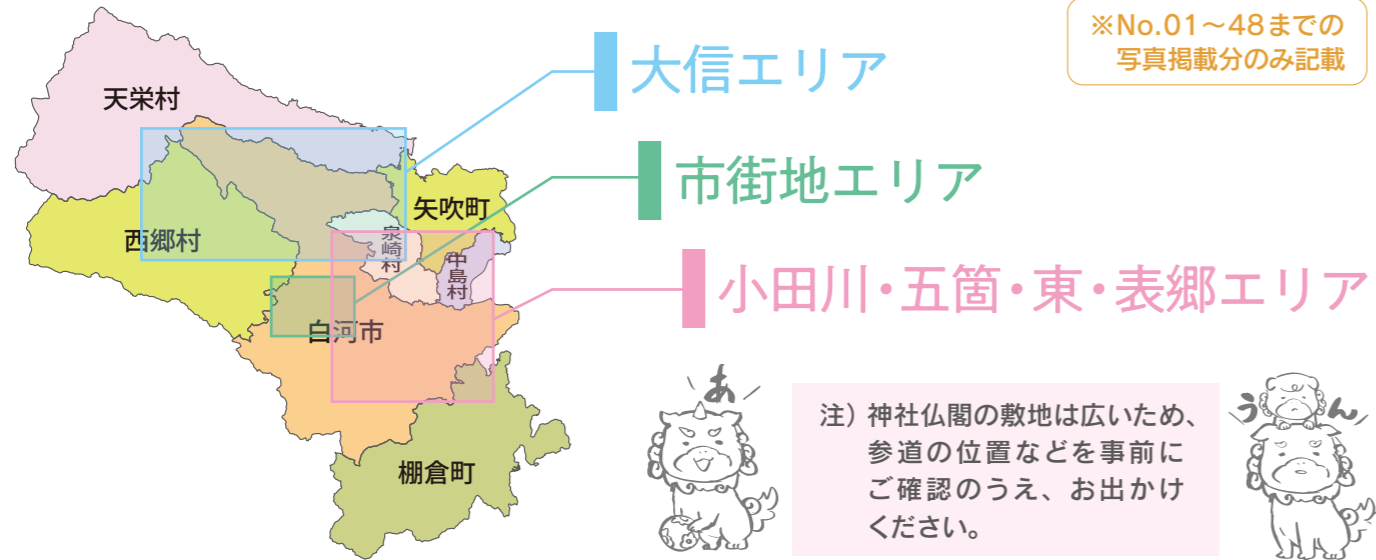




KOMAINU MAP

シラカワコマイヌマップ

※No.01~48までの
写真掲載分のみ記載



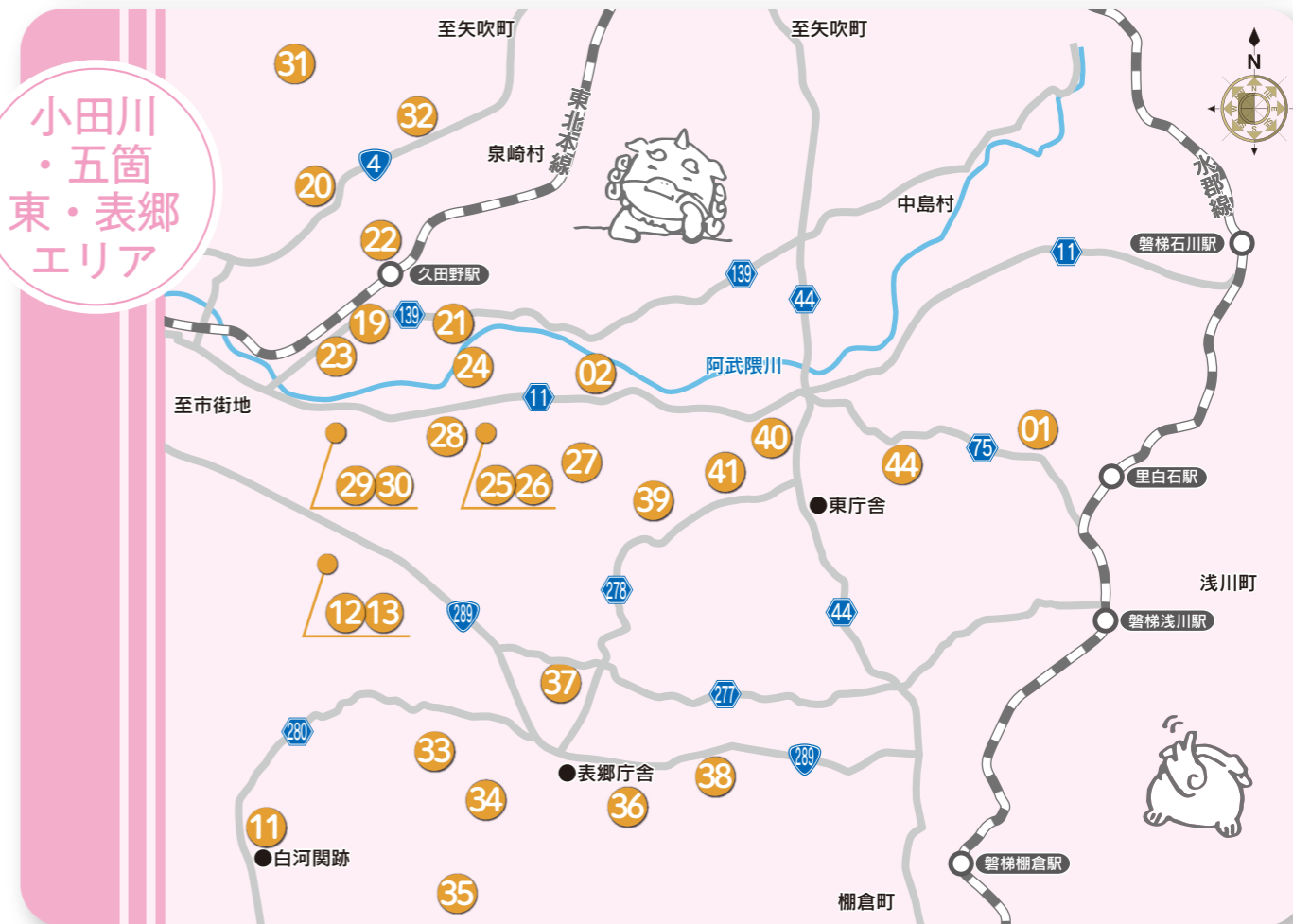
大信 エリア



市街地 エリア



小田川 ・五箇 東・表郷 エリア





小峰城跡

奥州関門の名城と謳われた小峰城は、結城親朝が14世紀中頃に小峰ヶ岡に築城し、江戸時代の初代藩主・丹羽長重が約4年の歳月をかけて大改修(1632年頃)させた梯郭式の平山城です。1868年に戊辰戦争で城内建物の一部が焼失し、平成3年に三重櫓、平成6年に前御門が歴史資料や発掘調査成果に基づき木造で復元されました。



南湖公園・南湖神社

1801年、白河藩主・松平定信が築造した庭園。湖畔には桜、松、楓などが移植され、四季折々の美しい風景を堪能できます。また、南湖神社は定信を祀る南湖岸の社で、出世大明神、世直し大明神、繁昌の神として信仰され、近年では除災開運としても人気があります。



白河関跡

奥州三関ののひとつに数えられる白河関は、奈良時代から平安時代頃に機能していた国境の関で、当時は人や物資の往来を取りしまっていたと考えられています。その後、都の文化人たちの憧れの地となり、歌人・俳人が多くの歌や句を残しました。



白河駅

赤瓦の屋根やステンドグラスが特徴的なJR白河駅の駅舎は、大正10年(1921年)に建てられた木造平屋建ての歴史的建造物で、「東北の駅百選」にも選ばれています。昔のままの長いプラットフォームも駅舎と一体となって大正期の趣を伝えています。



白河だるま

眉毛は鶴、ひげは亀、耳びんは松、顔の両側に梅、あごひげは竹を表しているといわれています。白河藩主・松平定信が絵師の谷文晁(たにぶんちょう)に図柄を考案させたとされており、全国に知られる縁起物です。幸運を招く福々しい「鶴亀松竹梅だるま」として人気を集めています。



白河ラーメン

コシと歯ごたえのある手打ちのちぢれ麺、コクがありながらさっぱりとした味わいのしょうゆ味のスープが特徴です。市内には数多くの店舗があり、職人気質な店主たちがこだわりを持って日々美味しさを追求することで、白河のラーメン文化を築いています。

白河へのアクセス

東北新幹線

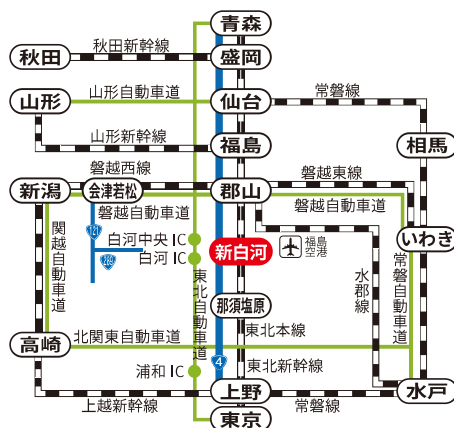
東京～新白河:1時間15分
仙台～新白河:1時間

東北自動車道

浦和IC～白河中央スマートIC(ETC専用)
:1時間45分
仙台南IC～白河中央スマートIC(ETC専用)
:1時間30分

福島空港

～白河市街:自動車で30分



(発行) 白河市長公室文化振興課
〒961-8602 福島県白河市八幡小路7番地1
TEL 0248-22-1111(代)
(協力) 福島県南地方狛犬ネットワーク